

高野山流人僧墓

高野山流人僧

徳川時代天草は流人の島であった

流されてきた流人は三百余人

その中に、高野山の僧がいる

元禄五年（1655）、高野山僧六百余人が流刑となり

そのうち天草には132人が流されてきた

流罪となった理由は、明らかではないが、派閥争いによるものとみられている

天草の他には、五島（125人）、隠岐（155人）

流人僧は八年後赦免となり帰国を許されるが、その間亡くなった流人僧も多数いたようだ。

天草近代年譜は次のように記す

元禄一三年 是歳、帰国を差許される

尤も流島九年の間に、配地に空しくなれる者少なからず

その中で天草で亡くなった高僧流人の墓が有明・九品寺と志岐・国照寺の墓地に残っている

その墓は、共に立派だ

という事は流人とはいえ島の人が尊敬していたことが分かる

ただ、その記録がないのが残念だ

国照寺の墓碑 天草郡苓北町志岐

国照寺墓地には、三基の高野山僧の墓がある。



天草郡苓北町志岐、国照寺墓地

この墓地には3基の高野山僧墓碑がある



(右側面) 正徳三癸巳十一月十五日施主富岡町住人
弟子八代屋長左衛門

(正面) 高野山 前正覚院権大僧都法印秀量
阿闍梨良雲
前長福院阿闍梨秀漢

(左側面) 元禄十丁丑十月七日志岐村に而寂



(表) 無縁之塔

(裏) 高野山故正福院乗音

良雲七十二歳而元禄

十一年戌寅正月廿九日化



元禄五年十一月五日入寂

阿闍快信 覺位

為高野山真徳院 菩提

上の塔は、表に無縁の塔と刻字され、裏に次の文字が彫られている。恐らく無縁塔を再利用したのだろう。一基は自然石である。刻字は磨耗してよく読み取れないが、右の通りのようである。

九品寺の墓碑

天草市有明町大浦



九品寺の高野山僧の墓・再建



高野山一心院谷金光院
権大僧都法印祐慶大和上
于時元禄七戌載十二月三日寂



元禄六 癸酉年 高野山
権大僧都法印栄遍 覺位
六月十九日 寂 寛主院

高野山僧墓



隣峰寺の墓碑

天草市天草町高浜

お寺の裏に、歴代住職の墓があるが、その後ろに建っている。
墓には、次のように刻まれている。

元禄八年乙亥歳

西福院法印祐遍覺

十月五日

経緯

「天草近代年譜」松田唯雄著によると、高野山僧流人に関して、次のように記している。

1692 元禄五年七月二五日

幕府、高野山学僧行人の争論を裁断し、行人627人を幽閉する。

1692 元禄五年八月二八日

幕府、高野山僧徒600余人を流刑に処する。

1692 元禄五年九月二七日

高野山行人配流の僧140人、この日富岡着船、曲崎へ飯屋を建てて入れ置く。

1692 元禄五年十月二十七日

富岡仮宿中の配流僧、この日郡中預けとなり、組々へ引き渡される。ただし、内2人は大坂にて、6人は富岡にて死去する。残り132人なり。各組への預かり内訳は次の通り。富岡町7人、志岐組16人、御領組15人、本戸組20人、栖本組20人、大矢野組18人、砥岐組8人、久玉組7人、一町田組11人、大江組10人。また、この他五島へ125人、隠岐へ155人、それぞれ配流される。

1700 元禄十三年この年

さきに配流されていた高野山の僧侶が赦免され帰国を許される。ただし、尤も流島9年の間に、死去したものの少なからず。

事件の謎

何故六百余人もの僧が一度に流人となったのか。先達の研究者にしても解明されていない。ただしおおよその事を郷土史家、故鶴田文史氏は、『西海義民流人衆史』で、次のように解説している(概略)。

高野山は弘法大師(空海)が開山した真言宗の大本山である。

高野山の僧には三種がある。それは学侶、行人、聖から構成されている。

学侶は高野山教団を構成する中核。

行人は仏前に香華や常燈、仏飯等の給仕をする。

また学侶に仕えて雑務や諸用を行う。修験者としての性格が強く、中世以降、山上や山下(莊園)の警察的役割を担ってきた。

聖は、主として勧進と唱導が任務である。

人数的には、圧倒的に行人の数が多し。

そこで考えられるのが学侶と行人の対立ということだ。つまり少数であるが、上位に位置する学侶が長い間に行人層を圧迫してきたのが、遂に爆発したのではないか。

この学侶の圧迫に、行人が反旗を翻したかどうかは定かでないが、政治権力は学侶層の味方をし、行人を高野山から追放したのではないか。また数が増えていた行人のリストラとも言えるかもしれない。

いずれにしても、一度に600人もの流罪は当時としても大事件であったと思うが、なぜかその記録が見当たらないようである。

天草に流されたのは132人であり、預け先は組までしか明らかでない。

流人は島送りとも言われ、特別の事がない限り御赦免になる事はなかったようであるが、この高野山僧流人は、9年後帰国を許されている。しかし近代年譜にも記されているように、9年の間に何人もの僧が亡くなっている。ただし天草に現存する墓（発見されている墓）は6基だけであり、何人の僧が、帰国できなかったか明らかではない。

万松山 国照寺



所在地 苓北町志岐
 開基 正保元年（1644）
 宗派 曹洞宗
 開基 鈴木重成
 開山 一庭融頓
 特徴 天草四ヶ本寺の一
 寺領 四十五石

平圃山 九品寺



所在地 天草市有明町大浦
 建立 正保二年（1645）
 宗派 浄土宗
 開山 鈴木重成
 開祖 信譽教我
 寺領 五石